

## 平成28年度第2回五所川原市総合教育会議 会議録

〈開催日時〉 平成28年12月26日（月）13:00～13:50

〈開催場所〉 五所川原市役所 5階 議会委員会室

〈議事日程〉

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 協議
  - (1) 金木高等学校市浦分校の運営について
  - (2) 学校給食センター給食への異物混入について
  - (3) つがる克雪ドームの改修について
- 5 意見交換
- 6 閉会

〈出席者〉

市長	平山誠敏
教育長	長尾孝紀
委員	阿部育也
委員	丁子谷悟
委員	木村吉幸
委員	三湯洋生

〈説明のために出席した者の氏名〉

・教育委員会（事務局）

教育部長	寺田建夫
教育委員会事務局教育総務課長	川浪生郎
教育委員会事務局文化スポーツ課長	葛西一
教育委員会事務局教育総務課課長補佐	福山佳秀

・市長部局

財政部長	佐藤明
------	-----

〈会議の概要〉

開会 13:00

○教育部長（寺田建夫）

それでは、定刻となっておりますので、ただ今より、平成28年度第2回五所川原市総合教育会議を開会いたします。開会にあたり、平山市長より、ごあいさつをいただきます。

## 市長あいさつ

### ○市長（平山誠敏）

本日は、お忙しい中、平成28年度第2回総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。まずもって、先般の学校給食の異物混入事案につきましては、皆様に大変ご心配をおかけいたしました。教育委員会は勿論、市長部局といたしましても、このような事例が発生しないよう、危機管理体制の再確認をしたところであり、詳細については、この後の協議の中で、教育長より説明申し上げます。

さて、本会議は、教育委員会制度改革に伴い、昨年度から始まり、これまで計3回開催しておりますが、いずれの会議におきましても当市の教育行政についての想いを共有することができたものと存じております。本日の会議におきましても、市と教育委員会が一体となり、推進力を高め教育行政を展開していくための有意義な時間にと考えております。

また、本格的な人口減少時代の到来とともに、社会情勢が刻一刻と変化する中で、子どもたちを取巻く環境も大きく変化しております。子どもたちを巻き込んだ事件、事故が連日報道されるなど、家庭環境、そして教育現場に求められる役割も複雑多様化しております。本日は協議案件として、来年度予定している、つがる克雪ドームの大規模改修の内容と方向性を確認するとともに、状況が大きく変わってきている金木高等学校市浦分校の閉校時期をどのようにしていくか等予定しておりますので、皆様の忌憚のないご意見をいただきますよう、お願い申し上げます。

### ○教育部長（寺田建夫）

ありがとうございました。続きまして、長尾教育長より、ごあいさつをいただきます。

## 教育長あいさつ

### ○教育長（長尾孝紀）

教育委員会を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。只今市長からもありましたとおり、先般の学校給食の異物混入事案につきましては、皆様に大変ご心配をおかけいたしまして、心よりお詫び申し上げます。教育委員会といたしましても、再発防止に向け、総点検を実施しておりますが、詳細につきましては、この後の協議の過程で説明いたします。

さて、先日20日に、小学5年生と中学2年生を対象に8月に実施された県学力学習状況調査の結果が公表されました。結果を見ますと、小学校は10市中で3位と、昨年から大きく改善が見られましたものの、中学校は9位と依然として課題が残されました。市及び県の状況と今後の対策等については、全国学力学習状況調査も含め、指導課で調査・分析しておりますので、後日改めて、報告する機会を設けたいと思います。

また、金木高等学校市浦分校につきましては、昨年の第1回総合教育会議で募集停止について協議した結果、これまでの経緯に基づいた総合的な判断から、平成29年度入学生から募集停止することを市の方針として定め、閉校時期を平成30年度末とすることとしました。しかし今年度の2学期から1学年の在籍者がゼロとなり、改めて協議を必要としております。これらの状況から、教育委員会では11月の定例会で方針を再度検討いたしましたので、この後の会議で、市の方針をお示しいただきたいと存じておりますので、よろしく願いいたします。

## 協議

### 案件1 金木高等学校市浦分校の運営について

#### ○教育部長（寺田建夫）

ありがとうございました。続いて次第の4、協議になりますので、これより会議の進行は、議長である平山市長をお願いいたします。

#### ○市長（平山誠敏）

次第に従って会議を進めて参りますが、まずは会議録の署名者について、五所川原市総合教育会議の運営に関する要綱の第8条第2項に「議長が指名する2人の構成員が署名」とありますので、市長部局から私が、教育委員会からは長尾教育長をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは、次第の4、協議に入ります。案件1は「金木高等学校市浦分校の運営について」です。昨年度の第1回会議においては、入学者数の減少と県による高等学校再編の動きなど様々な事情を基に総合的に判断し、平成29年度から市浦分校の入学生募集を停止する方針を固めました。このことで、平成28年度、今年の4月に入学する生徒が卒業する平成31年3月末に閉校になる流れを想定していましたが、現在は一年生がいないということであり、閉校の時期について確認しなければならないと思い本日の協議のテーマとしました。このことについて、教育委員会では既に話し合い、教育委員会としての方針をまとめたと聞いておりますので、その決定に至る流れも含め、説明をお願いいたします。

#### ○教育長（長尾孝紀）

金木高等学校市浦分校の運営についてということで、まずは現状と経緯についてお話しします。現状として、第1学年の在籍者がゼロ、第2学年の在籍者が9名、第3学年の在籍者が4名ということで、全校13名が在籍しています。校長及び教頭から確認したところ、第2学年及び第3学年の生徒については、現在のところ進級及び卒業の見込みであるとのことです。また、本日、12月26日現在で、他校からの転校などの相談はないとのことです。

経緯につきましては、8月22日付けで第1学年生徒が退学して第1学年の在籍者がゼロとなった報告を受け、9月21日開催の市教育委員会第9回定例会において、今年度中に現在の第1学年への転入等を希望する生徒がいる場合は校長、教頭と協議し、翌年度においても教員の配置状況を踏まえ、校長の考えを尊重し協議する方針を定めています。しかしながら、その後も転入等がないことから、教育委員会としては新年度の状況等も考慮し、新たな対応の必要に迫られ、11月17日開催の第11回定例会において再度教育委員会としての方針を決定するに至りました。この定例会では委員の皆様から「平成30年度の生徒がいない状況下での閉校は避けたい。生徒がいるうちの閉校記念式典挙行や閉校記念誌づくりが最適ではないか。」、「平成28年度中に第1学年に転校生があったとしても現実的に多くは見込めず、今後、生徒会やPTA活動、閉校行事などでかなりの負担が特定の子に強いられてしまう。」「現在第1学年がいないということが、来年度の教員配置に大きく影響し、第3学年のみに対する教員配置が考えられ、現在の第1学年に転校生があった場合は教員に大きな負担が強いられてしまう。」

「今後も現在の第1学年に転入等の見込みが低い場合、平成29年度、つまり来年度中に閉校記念事業を行うこととした場合、関係予算の準備のため、現段階で閉校時期を1年早める判断をした方が良いのではないか。」「仮に閉校を1年早めた場合、現在の第1学年に転入等がある

場合、その生徒は第2学年終了時で閉校になるため、その後の進路について支援が必要である。」など様々な意見が出されました。

最終的には、これらの意見を踏まえ、市浦分校については「現第1学年への転入等の見込みが低く、平成30年度末に生徒がいない状態で閉校を迎えることになると考えられることから、閉校時期を1年早め平成29年度末にするとともに、現第1学年に転入等があった場合は閉校後の就学の機会を保障するため、本校である金木高等学校または他の定時制高等学校への転入等について支援していく」ことを教育委員会の方針としたところです。

○市長（平山誠敏）

ありがとうございました。説明を受け、あらためて市浦分校が厳しい状況に置かれていることを理解したという気持ちです。閉校を1年早める理由として、生徒がいるうちの閉校記念式典や閉校記念誌づくりという話がありましたが、具体的に誰がどのようにこれらのことを進めていくのか、学校側と話し合ったりしているものなのでしょうか。

○丁子谷委員

私は自宅が市浦分校に近いということもあり、時々学校に行ったりする機会があります。学校側と話をしてみますと、生徒がいるうちの来年度末での閉校が自然ではないかという話を聞きます。また、閉校が1年早まるとすれば、閉校記念事業についてはPTAや同窓会等が実行委員会を作って役割を担っていくということになりますので、早め早めの判断と対応が必要になってくると思います。やはり生徒がいない平成30年度での閉校記念事業では、人が集まりにくく式典等への参加者も少なくなるなど、難しい問題があると考えています。

○市長（平山誠敏）

そうであれば、なおさら生徒がいるうちに閉校記念事業を行って、生徒による発表や歌唱など、素晴らしい催物に満たされた閉校記念式典にしなければならないと私も思います。市浦分校は、これまで地域とともにあり、皆さんに愛されてきた学校であったでしょうから、地域の皆さんを多く招いた閉校記念式典にしてはどうでしょうか。

○丁子谷委員

昭和28年に創立され、歴史も63年を数えるわけですが、相内分校時代、そして市浦分校になってからも、常に地域に愛されてきた学校でした。それだけに、今回の1年早めての閉校は大変残念であるとともに、「納得」するのではなく「仕方ない」というのが私も含め地域住民の気持ちでしょうし、その辺りを十分理解したうえで市としての判断をしてほしいと思っています。

○市長（平山誠敏）

只今、丁子谷委員から、市浦地区において地元の高校を見守り続けてきた立場からのご意見をいただきました。地域から学校がなくなるということは、子供達の元気な姿が見られなくなるという「寂しさ」だけではなく、学校がなくなることで地域から活力が失われたり、衰退していくのではないかという「不安」をもたらすものだと思います。

しかし、現在の第1学年への転入等の見込みが低く、このままでは平成30年度末に生徒が

いない状態で閉校を迎えることについては、市としても状況をしっかり受け止め、現実的な判断をしていく責任があると思いますので、私としても残念ではありますが、市浦分校の閉校時期を1年早めて平成29年度末にすることを市の方針としていきたいと思ひます。

ただし、このことを市の方針とするに当っては、先程、教育長から説明がありましたとおり、転入等の生徒があった場合は閉校後の進路を支援してほしいと思ひますし、地域の住民の皆さんのお気持ちも大事にして、閉校を1年早めることについてしっかり説明会を行っていきよう願ひしておきます。

#### ○教育長（長尾孝紀）

現1年生への転入等があった場合は、閉校後の進路支援について学校側とも話し合っていますので、しっかり行っていききたいと思ひます。また、地域住民への閉校を1年早めることに関する説明会については、来年早々に開催し、丁寧な説明に努め、ご理解を得たいと考えています。

### 案件2 学校給食センター給食への異物混入について

#### ○市長（平山誠敏）

それでは、次に案件2の「学校給食センター給食への異物混入について」話を進めて参りたいと思ひます。この度、学校給食センターで調理した給食に2度、金属片が混入していたことにつきましては、先の市議会の一般質問において多くの質問があったところです。現在も、おおよそ原因の特定が済んでいるものの、検証中につき最終的な結論に至っておりませんが、私からも再発防止の徹底と対応が遅れたことに対する改善をお願いしてきたところです。特に、対応が遅れたことにつきましては、異物が混入した際の対応マニュアルがないということが問われ、早期の策定が求められましたが、そのことも含め、現在どのような取組を行っているのかお知らせいただければと思ひます。

#### ○教育長（長尾孝紀）

9月26日と10月24日に学校給食センターから提供された学校給食に金属片が混入していたことから、事態を重く受け止め、早期に原因を解明して再発を防止する対策の徹底に努めて参りましたが、結果として対応の遅れや認識の甘さなど、一連の判断ミスなどにより安全が確保できないまま給食を提供してしまい、児童生徒及び保護者はもとより、市民の皆様のご信頼を損なうことになってしまいました。原因云々ということもありますが、安心安全な学校給食を提供しなければならないという立場にありながら異物混入に対する認識が不足していたことのほか、情報伝達が上手くなされなかったこと、またリスク発生時の対応マニュアルがこれまで整備されていなかったことなど、反省すべきことが様々あげられ、教育長としてそれらを十分に指示、監督できなかったことを深く反省しております。

異物混入発生後、施設の衛生管理の徹底はもとより、職員の危機管理意識の向上にも取り組んできましたが、異物混入対応マニュアルについては、学校給食センターの事務局と栄養士が中心となって素案を作成し、小中学校からの意見も取り入れて内容調整し、それを12月13日開催の五所川原市学校給食センター運営委員会に誇って助言を受け、修正したものを先般の定例会において協議し、「学校給食異物混入対応マニュアル」として策定いたしました。この対応マニュアルでは、給食停止も含め、異物混入が発生した際の取るべき行動を明確化したた

め、これまで個別に状況を判断して対応していたのと比べ迅速に対応できるようになったとともに、異物混入の未然防止に関する対策を強化しております。現在、小中学校は冬休みに入っているため学校給食の提供はありませんが、これから異物混入マニュアルの内容を各小中学校はもとより食材を納入している業者などにも周知し、3学期から実質的に運用していくこととなります。

施設面の話としましては、異物混入も含め不測の事態が再び発生しないよう、未然に防ぐ意味でも、冬休み中に施設建物及び機器の総点検を再び行うこととしております。

#### ○市長（平山誠敏）

不幸にも金属片など給食停止につながるような重大な異物混入があった場合も速やかに対応できるようになるようですが、何より、そのような事態が起こらないようにするのが一番だと思います。未然防止の対策が強化されるとのことでしたので、私もこのマニュアルの効果について大きく期待を寄せるものです。

#### ○木村委員

この度の異物混入は、原因からすれば、学校給食センター、教育委員会にとって不幸にも発生したと当初は感じていましたけれども、「新しい施設だから、まさか施工不良なんてないだろう」という思い込みが強すぎたと反省しなければならないのではないのでしょうか。私も普段、仕事で人の口に入る食べ物を扱っているので申し上げますけれども、教育委員会でも子供達の口に入る学校給食を提供する者の責任として、どれだけ新しい施設であっても当初からもっと建物の健全性について、より疑った目をもって見ておく必要があると思っております。

#### ○三鴻委員

今回の件につきましては、学校給食センターが給食を提供している五所川原地区だけではなく、来年度からセンター方式になる金木地区の問題でもあると思います。私も金木地区の学校に子供を通わせている親の一人ですが、周囲の親達もだいぶ不安に思っていると感じられました。3月には試験的に学校給食を金木地区の学校にも配送提供するなど事前トレーニングを実施して、4月からの本格提供に備えることになっていますが、個人的には、今回策定したマニュアルを時系列的にフローチャート化したものを作成し、市のホームページに掲載して広く公表するなど工夫をして、不安の解消を図ってみてはどうかと思っております。

#### ○阿部委員

今回のことは、教育委員会としても言い訳のしようがない事故であったわけですが、そんな中でも大変良かったと思う対応が一つありました。それは代替食をすぐに発注して一日分準備できたということです。これで保護者の皆さんに昼食の弁当を作っていただくという負担を考慮してなかなか給食を緊急停止できなかったという問題が解決できるようになりました。

#### ○市長（平山誠敏）

今回の異物混入につきましては、発生理由だけではなくその後の対応についても不備があったことから、市民の学校給食に対する信頼だけではなく、教育委員会に対しての信頼も大きく損なわれたものと思っております。公表後、職員への危機管理意識の教育や衛生管理の徹底、

マニュアルの策定、代替食の備蓄など、様々な対策を実施しているようですが、今後は保護者の皆さんが安心して子供達に給食を食べさせることができるよう、丁寧な説明を尽くしていただき、信頼してもらえる学校給食の提供に努めてほしいと思います。

また、7月の第1回会議の際に話し合ったアレルギー対応給食の提供につきましては、保護者の皆さんから期待されているところでもありますので、この期待に応えることで信頼が高まることにつながってくるのだと思いますが、その準備は順調に進んでいるのでしょうか。

#### ○教育長（長尾孝紀）

県内でもアレルギー対応給食を提供している例はまだ少ない方ですが、当市でも初めての試みでありますので、この二学期は他の実施自治体の状況を調査して、当市では実際どれくらいのことができるのかという研究を進めてきました。基本的には、特定原材料7品目である、えび、かに、小麦、そば、卵、乳、落花生の7大アレルゲンを使用しない学校給食を1種類提供することになります。調理は専門の職員を当たらせることとして、年明け以降そのための研修に参加させて専門知識を身に付けさせ、センター内で調理訓練を重ねていくことになります。現在、文部科学省が平成27年3月に発行した「学校給食における食物アレルギー対応指針」を基に、「食物アレルギー対応マニュアル」も作成中であり、今後は各学校に「食物アレルギー対応委員会」を設置していくとともに、医師の診断による児童生徒の「学校生活管理指導表」を作成してもらい、一人一人面談して対応するなど、今年度は安全対策のための環境づくりに万全を尽くして参りたいと考えております。

#### ○市長（平山誠敏）

安全対策のイメージがはっきりとしていて、それに向かって準備が着々と進んでいるようですので、私も期待するところです。しかし、このアレルギー対応給食を提供しているところでは、かなり厳しい安全対策をとっているらしく、なかなか大変であるという話を聞きます。食物アレルギーの事故は、単に健康被害の問題だけではなく、一つ対応を間違えれば命に関わる事態にもつながりますので、完璧な対応が求められます。学校給食センターでも、このことを十分認識して、確認に確認を重ね、安全対策を万全に保ち、保護者の皆さんの期待に応え続けていきたいと思います。

### 案件3 つがる克雪ドームの改修について

#### ○市長（平山誠敏）

それでは、次に案件3の「つがる克雪ドームの改修について」ですが、今年度の事業として大規模改修のための設計業務が進んでいると思います。その結果、教育委員会では来年度の改修工事の内容について、どのような青写真を持っているのか説明いただければと思います。

#### ○文化スポーツ課長

施設の概要につきましては、開設が平成14年8月1日であり、既に14年が経過して15年目を迎えています。敷地面積は75,331㎡、建物面積は12,239㎡、そして実際に使用されるグラウンド部分の面積が8,652㎡となっています。構造は、概ね50年保つと言われていた鉄筋コンクリートを主体として一部鉄骨になっています。収容人員は341席。主な用途は 野球、サッカー、ソフトボール、テニス、200mトラック、ゲートボール等になりま

すが、現在は野球やサッカーに多く使われています。これまでの施設利用人数は、初年度が年度途中ということもあり1万人台ですが、ここ数年は概ね6万人規模で推移しています。

続きまして、施設が15年目を迎えての問題点になりますが、大きく5つにまとめています。1つ目は「外観鉄骨部分の錆」で、北側の入口の方から見ていただくと確認いただけるとと思います。2つ目は「屋根の雨漏り」で、おそらく飛来物の影響であると思いますが屋根に穴が開き、雨の日には若干雨漏りしている箇所があります。3つ目は「結露」。4つ目は「搬入路やイベント出口の破損」で、大きく重い扉によりズレや歪みが生じてきたことが原因です。5つ目は「中央監視盤やボイラー」で、現在、中央監視盤に不具合があり、ボイラーについても稼働していない状況です。これらの改修工事につきましては、現段階で予算要望中ではありますが、担当課において工期を7月から12月末までにしたいと考えております。

#### ○市長（平山誠敏）

やはり14年も経つと随分多くの不具合が出てきているのだなというのが、只今の説明を聞いての率直な感想です。特に外観の鉄骨部分の錆については、ここ数年で目立つようになった印象がありますので、これ以上の錆を避けるためにも、今、確実に対処していかなければならない物の一つだと思っています。

#### ○丁子谷委員

施設の概要として約50年の耐用年数がある鉄筋コンクリート造りであるとの説明がありましたが、実際には15年程で設備等に改修の必要が出てきています。したがって教育委員会では、今やらなければ将来の施設運営に大きく影響してくるという認識で大規模改修の計画を進めているところです。来年度、開設15年で大きなメンテナンスをすることが、これからの20年、30年、もしくはそれ以上の期間、施設を健全に運営・使用できるための早め早めの投資になるのではないかと考えています。

#### ○市長（平山誠敏）

単なる改修ではなく、未来への投資ということには、私も賛成です。市長という私の立場からということになりますが、投資した結果、市民の皆さんには投資した分の何倍も喜んでいただけるような改修であってほしいと思います。

#### ○三鴻委員

克雪ドームの大規模な改修は来年度になりますが、これに関連した事業として今年度スポーツトラクターを購入し、グラウンドの改良をしています。実際に作業を行った状況や実施効果について、事務局から説明してもらえないでしょうか。

#### ○文化スポーツ課長

今年度予算でスポーツトラクター本体のほか、バイブレイキ、除草ローター、ハードレイキ、転圧用ローラーなどのアタッチメントも購入しました。指定管理により施設を管理している五所川原市体育協会からは「作業の効率がかなり良くなった」との声があり、また、利用者からも「土の質が変わって良くなった」との感想が寄せられています。克雪ドームのグラウンドは土の層が約10cmありますが、黒土が14年間の使用によりかなり固く締まってしまった状態



でした。これを購入した機械のバイプロレイキにより表層から5cm程の土を荒く砕いてほぐしましたが、これまではツルハシで作業を行うなど、かなりの労力と日数を要していました。続いて、荒くほぐした土を除草ローターを使って細かくする作業を行いました。克雪ドームでは長い間、このように深く土を掘り返す作業をしていなかったため、当面はこれらの作業を何度か繰り返して十分に土の塊を細かくしていく必要があると考えています。除草ローターで土を細かくした後、ハードレイキにより土を均一にならし、転圧用ローラーをかけて土を固めてブラシをかけたところ、グラウンドの表面が滑らかになりました。参考までに、機械設備として吸気ファンが故障していることにつきましては、グラウンドの土が固く埃が舞っていたことが影響していると考えられますが、このような機械による状況改善のほかにも、砂を入れていくなど土壌改良を進めて行くことで埃を少なくすることができれば、施設の長寿命化や利用者にとっての使いやすさにつながってくるのではないかと考えております。

#### ○市長（平山誠敏）

既に事業を実施している部分で、実際に喜んでいただいているというお話を聞くのは嬉しい限りです。14年前から使用している克雪ドームですが、冬期間の野球やサッカー、陸上競技や各種イベントなどを行うにつれ、市民に愛される存在になったと感じています。来年度、内容によっては金額がかさむ改修もあるかと思いますが、改修によって得られる効果を十分に考慮しながら、将来への投資という意味でも、協力していけるところは十分に協力していきたいと思っています。

本日は、このところ私が気になっていた金木高等学校市浦分校、そして学校給食センターについて、教育委員会の皆様と様々な意見を交わして想いを共有し、今後の運営の方向性を見出していくことができました。

市浦分校につきましては、一年生がいないという状況に対して現実的な対応を取って「閉校時期を平成30年度末から1年早めて平成29年度末にする」ことを市の方針とし、また、学校給食センターにつきましては、異物混入対応マニュアルとアレルギー対応給食をはじめ、安全対策を徹底して信頼の回復に努めていくことを確認できました。

また、つがる克雪ドームにつきましては、来年度から本格的に改修工事が始まりますので改修内容について話し合いましたが、いずれも本市にとって重要なこの施設を、市民により長く、有効に使っていただくための投資と捉え実施していくとの考え方で一致することができました。

#### 意見交換

##### ○市長（平山誠敏）

それでは、これで本日予定していた協議の議題について終了しましたので、続いて次第の5、意見交換に入ります。皆様、意見交換として何かございませんでしょうか。

（「なし」の声あり）

##### ○市長（平山誠敏）

ないようですので、これで、平成28年度 第2回 五所川原市総合教育会議を閉会いたします。本日は大変ありがとうございました。

閉会 13:50

〈署名〉

五所川原市総合教育会議の運営に関する要綱第8条第2項の規定により、ここに署名する。

平成 28 年 12 月 26 日

五 所 川 原 市 長

五所川原市教育委員会教育長